




子どもの本がつなくスマイルプロジェクト  
親子ふれあい読書フェスティバル

# 本はともだち



福島を知る・福島を伝える

福島県立図書館


東日本大震災から7年が経ちました。  
東日本大震災の年に生まれた子どもは小学生に、小学生だった子どもは中学生、高校生、大学生になる年です。  
図書館では、小学生や中学生から「東日本大震災について調べたい」と言われるようになりました。  
そこで、子どもたちが福島について考えたり、東日本大震災について調べるときに手がかりとなる本や情報を集めました。











福島の昔のこと、今のこと、これからのこと。  
知りたい、考えたい、伝えたいと思ったときに  
お役立てください。

ここに紹介した本や情報の他にも、図書館にはたくさんの情報があります。学校の図書館や、近くの図書館を訪ねてみてください。

## この本について


小学校高学年から中学生のみなさんが、福島について調べる手がかりとなる資料や情報を紹介しています。

 の数を読みやすさの参考にしてください。

-  ..... 読みやすい本
-   ..... 少し難しい本
-    ..... 中学生向けの本
-     ..... 中学生・高校生・おとな向けの本

東日本大震災についてのページでは、福島について書かれたもの、実際にあったことについて書かれたものの中から紹介しています。

表紙写真

請求記号   
福島県立図書館の本の番号

例：388/オ

■ インターネットの情報です。

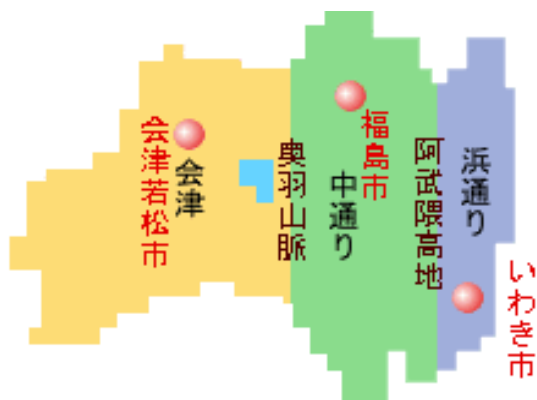
◆ 本とインターネットで読むことができる情報です。

※ インターネットのURLは2018年10月17日に確認したものです。

# 福 島

福島県の面積は、13,783.9平方キロメートルで、全国では北海道、岩手県について3番目の広さです。

福島県は、南から北へつらなる阿武隈高地と奥羽山脈によって、中通り・会津・浜通りの3つの地方に分けられます。同じ福島県でも、この3つの地方では、気候が大変違います。



県の花 ネモトシャクナゲ



県の鳥 キビタキ



県の木 ケヤキ

福島県>県のすがた より

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/ken-no-sugata/>



- ◆ 『ふくしまのかんきょう  
平成30年度版 環境教育副読本』  
福島県 [2018] LS519/F1/12-2018

美しい自然と安心して暮らすことができる環境を未来につなげるために、今できることを考える手がかりになる情報です。  
地球環境、ごみとりサイクル、自然環境、水環境、大気環境、原発事故後の新たな取り組みについて書かれています。

環境教育副読本(福島県)

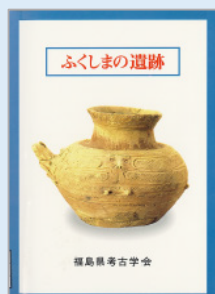
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005a/fukudokuhon.html>



■うつくしま電子事典 <文化・伝統編><人物編><自然編> 福島県教育委員会市町村ごとに、歴史がわかる場所や、業績をのこした人、自然について調べることができます。

<http://www.gimu.fks.ed.jp/shidou/jiten/>

# 福島県の歴史と文化を調べる



## 『ふくしまの遺跡』

ふくしまの遺跡編集委員会/編  
福島県考古学会 2005

L210.02/F13/4



中通り地方、浜通り地方、会津地方、それぞれの地域で発掘調査された遺跡を調べることができます。遺跡の写真や発掘された石器、土器などの写真と一緒にわかりやすく解説されているので、身近な遺跡を知ることができます。



## 『武者たちの舞台 ふくしま紀行 城と館』上, 下

福島民報社/編  
福島民報社 2007

L526.2/F3/1



上巻では中通り、下巻では会津と浜通りにあった城と館について調べることができます。市町村ごとに城跡や館跡を写真で案内し、そこにまつわる歴史や伝説、祭りなどを紹介しています。



## ふくしまの文化財を見る



■ ふくしまの文化財を見る  
まほろん 福島県文化財センター白河館

福島県の文化財を地域ごとに調べたり、旧石器時代から現代までの時代ごとに調べたりできます。文化財ごとに写真・場所・時代・解説文があります。



[http://www.mahoron.fcp.or.jp/bunkazai\\_sear.html](http://www.mahoron.fcp.or.jp/bunkazai_sear.html)

■ 文化財データベース まほろん 福島県文化財センター白河館

<http://www.mahoron.fcp.or.jp/search.html>

福島県内の遺跡情報、まほろんの資料の情報を詳しく調べることができます。





『図説福島県の歴史(図説日本の歴史7)』  
 小林清治/責任編集  
 河出書房新社 1989 L210.1/K3/2

先土器時代から昭和までの福島を、写真やコラムをまじえてくわしく解説しています。子ども向けに書かれた本ではありませんが、難しい漢字には読み仮名がついているので索引でキーワードから調べるなど、高学年から利用できます。年表や年中行事一覧あり。

## 市・町・村の歴史と文化を調べる

みなさんの市・町・村のホームページにアクセスしてみましょう。



### ■ 県内市町村地図上検索(福島県)

地図にある市・町・村をクリックすると、それぞれの市・町・村のホームページを見ることができます。概要(プロフィール)や「観光」情報で、歴史・文化・祭りなどについて調べることができます。

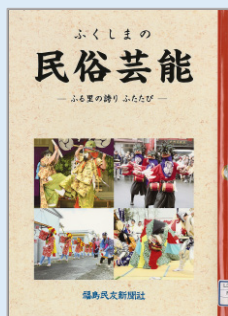
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01010d/koho-chizu.html>



『ふくしまの歴史と文化の回廊集』 291/7  
 福島県教育委員会/総合編集  
 福島県教育委員会 2007

歴史や文化を市町村ごとにテーマで紹介しています。化石、遺跡、城跡、寺、神社、建物などの歴史にかかわる場所、有名な桜や杉、祭りが写真で案内されているので、市・町・村それぞれの名所から歴史や文化を知る手がかりを見つかることができます。





『ふくしまの民俗芸能  
ふるさとの誇り ふたたび』 L385.7/F11/1  
福島民友新聞社 2015

福島各地に伝わる舞や踊りなどの民俗芸能について調べることができます。じゃんがら念仏踊、獅子舞、神楽などの写真があり、伝承者からのメッセージも掲載されています。

市・町・村がつくったわかりやすい歴史の本も発行されています。



212/7

『ふくしま歴史絵巻』  
福島市教育委員会  
2017



『れきしら L215/S4/4  
白河歴史の手引き』  
入門編(2013) 上級編(2015)  
白河市



212/1

『みんなで学ぼう  
いわきの歴史』  
いわき市教育委員会  
2017

## 観光ガイド・パンフレットを探してみましよう

観光協会などが発行しているガイド・パンフレットでも、市・町・村の歴史や文化について分かりやすく書かれているものがあります。近くの図書館や観光案内所で探してみましよう。



# 福島の伝説・昔話

「福島のむかし話」は、わたくしたちの祖先が残してくれた、だいじなたからです。わたくしたちが語りついで残していかなければならないだいじなたからです。

『読みがたり 福島のむかし話』より

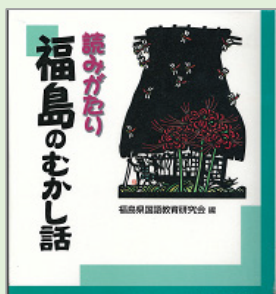


『猫魔ヶ岳の妖怪 福島の伝説』  
八百板洋子/再話 斎藤隆夫/絵  
福音館書店 2017

P/サタ/m



福島に伝わる四つのお話が収録されています。  
「猫魔ヶ岳の妖怪」(会津地方の伝説)  
「天にのぼった若者」(伊達市山舟生の伝説)  
「大杉とむすめ」(福島市笹木野の伝説)  
「おいなりさまの田んぼ」(福島市松川の伝説)



『読みがたり 福島のむかし話』  
福島県国語教育研究会/編  
日本標準 2004

388/ヨ/7



「へこきよめ」「子育てゆうれい」「花さかじい」  
「キツネの恩返し」「瓜ひめ」「天福と地福」  
「うばすて山」「貧乏神」「ツルの恩返し」  
「足長手長」「へびむこ入り」「サル地蔵」  
「十二支のいわれ」など、福島各地に伝わる  
昔話集です。



『福島県の昔話と伝説』 L709/F2/3-168  
福島県文化財調査報告書 第168集』  
福島県教育委員会/編 福島県教育委員会 1986



福島で語り継がれている昔話や伝説を市・町・村ごとに読むことができます。  
たとえば「桃太郎」のお話でも、白河市、三島町、北塩原村で違うところがあります。それぞれの地域に伝わるお話を調べることができます。



それぞれの市・町・村に伝わる昔話や伝説がほかにもたくさんあります。  
ここに紹介した本のほかにも地域に伝わるお話集があります。



L388/M2/2

『やさしく書いた会津の伝説』

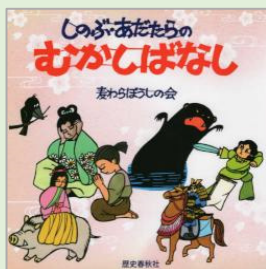
村野井幸雄/編著  
歴史春秋社 1981



388/オ

『おおくまの民話』

福島県双葉郡大熊町図書館/編刊 2007



388/ム

『しのぶあだたらのむかしばなし』

麦わらぼうしの会/編 歴史春秋出版 2018



L388/I16

『福島県飯館村のむかしばなし  
語って聞かせっかい』

飯館民話の会 1996

## 福島のわらべうた・遊び

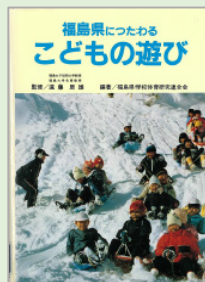
福島の子どもたちに親まれてきたわらべうたや遊びがあります。



J388.9/ジ

『ふくしまのわらべうた』CD付

児童図書館研究会福島支部/編刊  
2005



781/フ

『福島県につたわるこどもの遊び』

福島県学校体育研究連合会小学校部会/編著  
光文書院 1984

# 東日本大震災を伝える

## 東日本大震災のときにおきたことを調べるには

平成23(2011)年3月11日14時46分、三陸沖を震源として「平成23年 東北地方太平洋沖地震」が発生しました。この地震では、最大震度7を記録した激しい揺れとともに、岩手、宮城、福島県の沿岸を中心に、北海道から千葉県にかけて広い範囲で津波が押し寄せました。そして、東京電力福島第一原子力発電所事故がおきました。

■「ふくしま復興ステーション 復興情報ポータルサイト」(福島県)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>

「東日本大震災による被害状況」、「第一原子力発電所の状況」などを調べることができます。

◆『ふくしま復興のあゆみ』(福島県)

LS369.31/F4/9

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-fukkoukeikaku1151.html>

被害状況、避難状況、除染実施状況などを調べることができます。平成24(2012)年10月から発行されています。



■コミュタン福島

福島県環境創造センター交流棟

<https://www.com-fukushima.jp/>

東日本大震災、それに続く原子力発電所の事故からの経過や、環境回復へ向けた取り組み、放射線やふくしまの環境の現状について学ぶことができる施設です。

場所: 福島県田村郡三春町深作10番2号  
田村西部工業団地内

## 東日本大震災を考えるためのブックガイド



『3・11を心に刻むブックガイド』

369/7

草谷桂子/著 子どもの未来社 2013

東日本大震災から2年ほどの間に、震災に関連する本が数多く出版されました。震災を伝える本、地震・津波の本、防災の本、原発・放射能の本など、震災の記憶が鮮明な時期に出版された子どもの本のブックガイドです。



## それから ー震災後ー

地震、津波によって、多くの人が亡くなり、さらに放射性物質による汚染もあり、たくさんの方が避難生活を送らなければならなくなりました。飼っている動物や野生の動物たちにも影響がありました。



『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』 P/スマ  
すとうあさえ/文 鈴木まもる/絵 童心社 2013

東日本大震災直後、東北本線、東北新幹線、東北自動車道が不通となり、物流が途絶えました。ガソリンスタンドには残り少ない燃料を求める車の長蛇の列ができました。そのような時に、なんとか福島に燃料を届けようとしてくれた人たちがいました。停電で電車が走れない磐越西線をディーゼル機関車が走り、燃料が届けられたのです。



『がんばっぺ! アクアマリンふくしま』 480/C+  
東日本大震災から立ちなおった水族館』  
中村庸夫/著 フレーベル館 2012


いわき市の水族館「アクアマリンふくしま」では、津波で電気が止まってしまい、たくさんの生物の命が失われました。生き残った動物たちを助けるために飼育員たちは奮闘します。各地の水族館、動物園などの協力によって、再開するまでの記録です。



『原発事故で、生きものたちに何がおこったか。』  
永幡嘉之/写真・文 岩崎書店 2015 462/ナ

原発事故で放射性物質が広がってしまったことで人が住まなくなった里山の変化を、写真で伝えています。セイタカアワダチソウの黄色い海、わがもの顔のイノシシなどが写されています。自然界の異変にしっかりと目をむけ、自分で考えることが大事だと著者は伝えています。



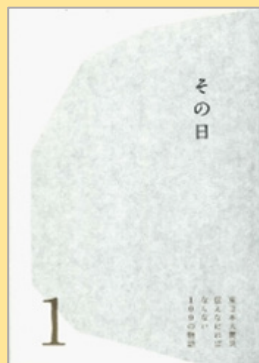
『語りつぎお話絵本3月11日』(全8巻) 369/ウ   
WILLこども知育研究所/編 学研教育出版 2013



東日本大震災で起きたことを伝えています。  
お話には写真つきのレポートがついているため、実際の様子や防災について知ることができます。

〈福島のお話〉

3. よかったね、「ミカン」と「はる」(大熊町 三春町 郡山市)
5. 鼓笛よびびけ! (福島市)
7. 「練馬の湯」で安らぎを (郡山市)
8. ふっこうの印「相馬野馬追」

(相馬市 南相馬市 新地町 飯舘村)



『東日本大震災 伝えなければならない100の物語』(全10巻)  
学研教育出版 2013 369/七   


東日本大震災で実際にあった出来事取材して、各巻ごとのテーマに合わせて伝えています。

〈福島のお話〉 ※数字はシリーズの番号です

- 1・光に向かって、行きたいと強く願った。津波の底からの生還  
・すべてをマイナスにはしたくない。13歳、柔道少年の決意
- 2・陸からやってきた津波 福島県須賀川市 藤沼ダム
- 3・そこには、何も、なかった。救助ヘリから見た被災地
- 5・大空から注ぐ、希望の水。陸上自衛隊ヘリ部隊、決死のミッション  
・これは国の命運をかけた任務である。

各巻のテーマ

- |                 |                                   |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1 その日           | ハイパーレスキュー隊、出動。そして帰還               |
| 2 明けない夜はない      | ・遠く離れた街で、前を向いて生きる。東京へ引っ越した家族の物語   |
| 3 生きることを、生きるために | ・誰もいない町へ。決死の一時帰宅                  |
| 4 助け合うこと        | ・夢がある。郷土への思いもある。だから、私は、そこへ戻る。     |
| 5 放射能との格闘       | ・みなさんに、福島の人は見えていますか？              |
| 6 絆(きずな)        | 自主避難をした主婦の、静かな訴え                  |
| 7 希望をつむぐ        | ・歌う。自分のため、仲間のため、未来のために。           |
| 8 広がりゆく支援の輪     | 南相馬少女合唱団の全国大会                     |
| 9 再生と復興に向かって    | ・感謝の思いを抱き、前に進む。福島県いわき市 フラガールの復活   |
| 10 未来へ          | ・よみがえれ、私たちの海よ。「アクアマリンふくしま」の再オープン  |
|                 | ・福島に希望の花を咲かせる。「いわき万本桜プロジェクト」      |
|                 | 6・被災地に雇用を。新工場は福島に建てる。愛知 三笠製作所の決断  |
|                 | 7・震災を語り継ぐため、音色を再び。津波にさらされたグランドピアノ |
|                 | ・人々の優しさが、かなえた夢 姫花ちゃんのハンカチ         |
|                 | 9・みんなでやれば、できる。「かーちゃんのカ・プロジェクト」始動  |
|                 | ・再生と復興に向かって。福島県 相馬野馬追             |
|                 | 10・心と体と地球のために。福島のレストラン「銀河のほitori」 |
|                 | ・大きな危機も、未来のチャンスに。南相馬市長の前向き思考      |

## これから ー復興ー

わたしたちの願いは、  
みんながふるさとに「かえる」こと。  
福島が以前のすがたに、よみ「がえる」こと。  
福島を「かえる」こと。  
わたしたちは、福島で生きていく。  
『かえるふくしま』より



『かえるふくしま』  
矢内靖史/写真・文 ポプラ社 2016

P/ヤヤ



東日本大震災前から撮り続けてきた福島に生息するカエルの写真集です。豊かな自然がある福島は、さまざまなカエルが棲む「カエル王国」でした。写真に添えられたメッセージには、震災前、震災後、そして今の福島が語られています。



『サケが帰ってきた!』  
福島県木戸川漁協震災復興へのみちのり』  
奥山文弥/著 小学館 2017

664/オ



豊かな漁場であった檜葉町の木戸川では、震災・原発事故によりサケ漁の存続が危ぶまれるほど甚大な被害を受けました。釣り好きだった少年は木戸川漁業協同組合の一員となり、苦難に直面しながらサケ漁の復興へ歩み続けます。



『それでも「ふるさと」』(全3巻)  
豊田直巳/写真・文 農山漁村文化協会 2018

369/ト



「まδει」な村とよばれる飯館村の震災後の7年にわたる家族や村の記録です。「牛が消えた村」で種をまく「まδει」な村の仲間とともに」「負けてられねえ」と今日も畑に 家族とともに土と生きる」「孫たちは帰らない」けれど失われた「ふるさと」を求めて」の3巻。

# 災害に備える

東日本大震災を経験して、災害に備えることの大切さを伝える本が何冊も出版されました。どのように備えたらよいか一緒に考えてみましょう。



◆『そなえるふくしまノート 防災ガイドブック』 369/7  
福島県 2017



「備える」では、「家族で確認しよう」「助け合うこと」「防災グッズの準備」「防災訓練に参加しよう」など、「身を守る」では、「地震」「津波」「火災」「風水害・土砂災害」「大雪」「火山噴火」「原子力災害」について、ベコ太郎のイラストでわかりやすく解説しています。福島県のホームページでも見ることができます。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01010a/sonafukunote.html>



『子どものための防災訓練ガイド』(全3巻) 369/7  
松尾知純/著 汐文社 2013



災害から自分の身を自分で守れるように知識を身につけ、備えるためのガイドブックです。まちや屋内の防災マップの作り方、避難や救命・救助活動、防災訓練のための防災キャンプなどについて学ぶことができます。

1. 防災マップ・カルテ作りー身近な危険をチェック！
2. 避難と行動ーその時、命を守りきる！
3. 防災キャンプーみんなで体験！



『3.11が教えてくれた防災の本』(全4巻) 369/カ  
かがわ出版 2011-2012



東日本大震災で実際におきたことから、災害について備えたい事からや知識を集めたシリーズです。家族や学校で話し合い、いざというときのためにみんなで考えるために作られた本です。

1. 地震
2. 津波
3. 二次災害
4. 避難生活

※2011年12月までに調べた情報によるものです。



『72時間生きぬくための101の方法  
子どものための防災BOOK』  
夏緑/著 たかおかゆみこ/絵 童心社 2012

369/ナ



災害がおきたとき、もし子ども一人だったらどうしますか？ 救助について、災害がおきてから72時間（3日間）が大事だと言われます。災害がおきてから助けが来るまで、子どもが一人で生きのびるための方法や行動について書かれています。

## その他

### ■ 参考資料・リンク集(環境再生プラザ)

[http://josen.env.go.jp/plaza/materials\\_links/](http://josen.env.go.jp/plaza/materials_links/)

環境再生プラザ(環境省)のウェブサイト「除染・放射線学習ツール」では、「ふくろう先生のほうしゃせんきょうしつ」(小学校低学年向け)「みんなで学ぼう 除染のこと」(小学校中学年～中学生向け)などが公開され、放射線や除染について学習することができます。



### ★ 東日本大震災福島県復興ライブラリー(福島県立図書館)

東日本大震災の後、震災を伝える本がたくさん出版されました。ここで紹介した本のほかにもたくさんあります。福島県立図書館では、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故とそれに伴う県内の被災・復興についての関連資料を収集し、「東日本大震災福島県復興ライブラリー」としてみなさんにご利用いただいています。

福島県は「福島県子ども読書活動推進計画(第三次)」に基づき、子どもたちの読書を支援する活動を実施しています。また、県内の公共図書館や関連施設と連携を取り、子どもたちが楽しい本、心に響く本、未来に夢を持つことのできる本に出会う機会を提供しています。

福島県立図書館では、子どもの読書活動を支援する活動として、直接来館する親子への図書の出に加えて、市町村立図書館、公民館図書室、学校図書館やボランティアへの資料や情報の提供を行っています。

心を育て、未来への扉を開く素敵な本との出会いを子どもたちへ！



福島県立図書館 こどものへや



子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト  
親子ふれあい読書フェスティバル

## 本はともだち 福島を知る・福島を伝える

2018（平成30）年11月4日発行

編集発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

FAX 024-536-4787